

公共施設
管理・整備

学校トイレの洋式化とエアコン設置を

Q 〈沖田 ゆかり 議員〉

A 〈教育部長〉

国の補助金活用など財源を探り検討している。



〔Q1〕 和式トイレについては、老朽化による不衛生な状態や、苦手意識などを理由に子どもたちも利用を我慢する傾向がある。このため、トイレの洋式化を望む声を多数聞いているが、現在の設置状況と今後の計画について伺う。

〔A1〕 町内小・中学校のトイレの洋式化率は、21.2%である。今後は、各校ともに老朽化した配管自体の改修も考え、大規模改修工事に合わせての洋式化を検討している。

〔Q2〕 地球温暖化の影響により、今後も夏場の気温はさらに上昇することが予測される。よりよい教育環境を整備するために、エアコンの導入を、海田町では既に実施、府中町においては、平成29年度に工事に着手すると聞いている。

〔A2〕 学校施設へのトイレ洋式化やエアコン設置について、避難所としての機能をあわせた今後の方向性について、町の考えを伺いたい。要望が強い問題ではあるが、莫大な費用がかかるため、慎重に検討していく。

Q 〈民法 正則 議員〉

都市再生整備計画事業の完了見込みは

A 〈町長〉

都市再生整備計画事業は、平成29年度に終了する。大型遊具は、適切に維持管理を行い、事故防止に努める。

〔Q1〕 熊野団地で平成26年度から取り組んでいる都市再生事業の完了見込みは。

〔A1〕 これまでに、くまの・みらい交流館建設、町道山崎線拡幅、大型遊具設置等が完了した。平成29年度は、西公民館跡地への防災コミュニティセンター設置等を行い終了する計画である。

〔Q2〕 都市再生整備計画全体の総事業費と、交付金の見込み額は。

〔A2〕 事業費は7億3730万円で、交付金の見込み額は、2億9490万円である。

〔Q3〕 遊具による子どもの死傷事故が後を絶たない。

〔A3〕 完成後3年間は、設置業者が年1回の安全点検を行う。職員による安全点検も月1回を目安に行う。交流館の開館時間帯は、交流館職員が事故対応等を行う。

〔A4〕 付近に建設中の西部ふれあい広場にトイレが完成する来年度までは、交流館のトイレが利用できるよう検討する。

Q 〈立花 慶三 議員〉

公共施設、公共設備の安全を

A 〈教育部長〉

可能な限り安全面に配慮し、安全の確保、利便性の向上に努める。



▲ 看板 (注意事項)

〔Q1〕 くまの・みらい交流館広場の大型遊具で、危険と思われる行為が目撃されており、特段の注意を払っていたいただきたい。

〔A1〕 新たに看板(注意事項)をわかりやすいところに取付けるように検討している。

〔Q2〕 町民会館講堂の可動式階段で、何度も転倒事故が発生している。本人の不注意もあると思うが、安全・安心のためにも安全な箇所や不安全な行動に心配りを。

〔A2〕

移動階段席については、昭和60年の開館以来、同じ状態で利用していたが利用者に高齢者が増加したこともあって、平成27年5月に一段目の段差が他の段の倍あることから、階段席通路の先端に踏み段を設置してその差を解消していた。昨年6月には踏み台が暗くて見えないとのことから、蛍光テープや間接照明を当てるようにして安全の確保に努めてきた。

けんみん文化祭具、安芸地区フェスティバルにおいて、三つ設置した踏み台の一個が取り外された状態となっており、普段利用されない他市町の方が多かったこともあり転倒者が続出した。今後は、踏み台の異なるの有無等を適時点検する体制を整え、さらに安全の確保、利便性の向上に努める。

その他の
町行政

Q 定住促進政策の効果と今後の展開は

A 〈町長〉

一定の効果はあると考えるが、利用者の声を吸収して今後の進化の可能性を見出す。



大瀬戸宏樹 議員

〔Q1〕

定住支援策の一つとして、その建設費の一部を助成してきた「住むなら熊野の定住応援助成金制度」がある。過去3年の利用者は27世帯99人であり、助成額は三年間で約4千万円弱である。町はその効果をどのように見るか。

〔A1〕 町外流出や小学生の減少に一定の歯止めとなっているように思われる。また税収上も効果が期待される。

〔Q2〕

利用者に対し、熊野町を選んだ理由など、アンケートや追跡調査等、子育て世代の意見を拾い上げて今後の政策に反映させてはどうか。



〔A2〕 来年度からアンケートを実施する。制度を周知するため、さらにPRを強化する。